

高砂地区開発協議会ニュース

第7号 平成24年6月

発行元：高砂地区開発協議会
会長 本田 幸一
協力：葛飾区 都市整備部
電話：5654-8344

平成23年度の協議会活動をご紹介します。

「高砂音楽祭」でまちづくり活動をPR!

9割以上の方が「一日も早く開かずの踏切を解消してほしい」と回答しました。
⇒詳細は6ページ



テントに入れなほどの人が集まりました



午前中から大勢の方に回答していただきました

「高砂駅周辺まちづくり方針」を策定!

まちづくりの具体化に向けて、まちづくり勉強会がスタートしています。

⇒詳細は2ページ

京成電鉄へ鉄道立体化の要望書を提出

平成21年に引き続き、京成電鉄へ鉄道立体化の早期事業化を求める要望書を提出しました。
⇒詳細は8ページ

京成本線の京成高砂～江戸川駅付近は、平成20年6月、東京都において、新たに国の事業採択を目指す「事業候補区間」として位置づけられ、平成21年からは、東京都によって連続立体交差事業の調査が行われています。

鉄道立体化は、交通渋滞の解消や踏切事故の防止などとともに、鉄道によって分断されているまちを一体化して快適なまちにする効果を併せ持つ事業です。このことから、開発協議会では、高砂のよりよいまちづくりに向けて、まちづくり構想・まちづくり方針の策定など、総合的なまちづくりの検討を、地域の共通の理解を形成しながら進めています。

これからも、一日も早い「開かずの踏切」解消を目指して活動してまいりますので、一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

高砂地区開発協議会会長 本田 幸一

「高砂駅周辺まちづくり方針」を策定しました!

開発協議会は、平成 17 年度からまちづくり勉強会・まちづくり委員会を組織して、高砂にふさわしいまちづくりについて検討しています。

平成 23 年度は、平成 21 年 6 月 30 日に葛飾区に提案したまちづくり基本構想をさらに具体化し、まちづくりのイメージを地域住民で共有するための「まちづくり方針」を、まちづくりアンケート（平成 23 年 2 月～3 月実施）よる地元意見を反映して、策定しました。

■北口の駅前広場

～歩行者中心の出会いの広場～

- 北口地区の「玄関」
- 待ち合わせに便利な広場
- 四季を感じられる広場



■南口の駅前広場

～乗り換え便利な交通広場～

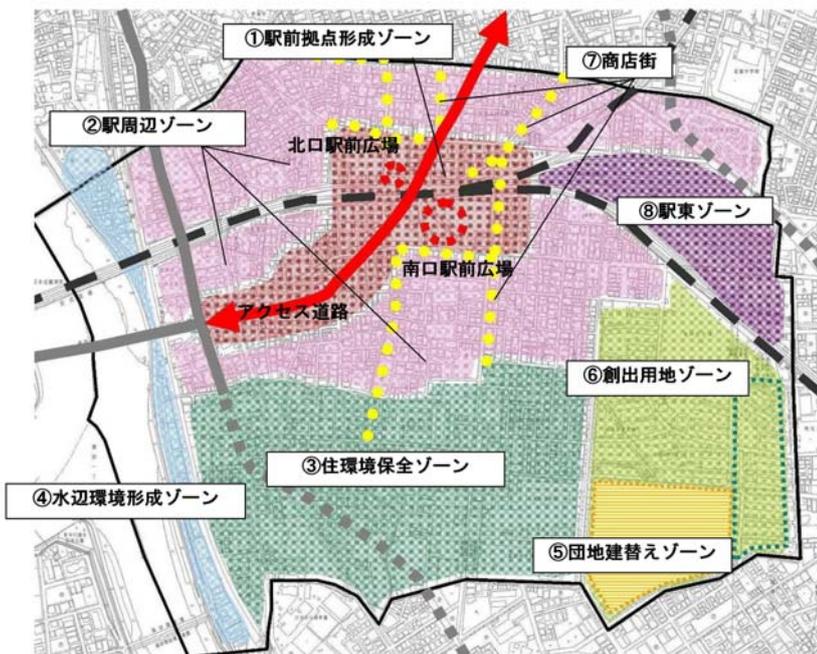
- バスやタクシー乗り場のある、駅とまちをつなぐ広場
- 誰もが安全で利用しやすい広場
- イベントにも活用できる広場
- 潤いのある緑の空間
- 高砂らしいモニュメントのある広場
- 防災機能も備えた広場



■アクセス道路

～安全な歩道のある、交通がスムーズな道路～

- バスや自動車が駅前広場にスムーズに入出りできる車道
- 歩行者と自転車が安心して通行できる歩道
- 植栽のある緑豊かな道路



◎賑わいと魅力を創出するまちづくり

①駅前拠点形成ゾーン

- 駅周辺の基盤整備にあわせた、賑わいと魅力あふれる商業環境の形成
- 若い世代やファミリー層の定住化を促進する利便性の高い住宅の確保

<北口周辺>

～高級派も大衆派も集う、活気あるまち～

<南口周辺>

～商業機能と公共機能が充実した、躍動感あるまち～



◎防災性や住環境の向上を図るまちづくり

②駅周辺ゾーン

～賑わいと調和した快適で安心なまち～

- 駅前地区や商店街とも調和した良好な住宅地
- 密集した市街地の環境改善により、安全で安心して暮らせる住環境の向上
- 狭あい道路の拡幅等による防災性の向上

③住環境保全ゾーン

～戸建住宅中心のゆとりあるまち～

- 安心して住み続けられるまち
- 敷地の細分化の防止と公園整備、行き止まりの解消などによる、安全・安心な住環境の形成と防災性の向上
- 公園整備による住環境の向上

④水辺環境形成ゾーン

～水辺景観を活かしたまち～

- 潤いのある水辺空間の景観形成とアクセスの改善
- 安全で良好な住環境の形成

⑤団地建替えゾーン

- 団地建替えによる、安全で安心して暮らせるまち
- 緑豊かで快適なまち

⑥創出用地ゾーン

- 住宅整備とともに生活基盤となる商業、医療・福祉施設が複合したまち
- 車庫機能の再生と周辺環境に調和した一体的な公園整備の検討
- 緑豊かで環境に配慮したまち
- 広域避難場所や水害時の避難場所としての機能を確保



⑦商店街 ～個性が光るメインストリートの再生～

- 個性豊かな活気ある商店街の再生



⑧駅東ゾーン ～まちの発展をリードする開発～

- まちの発展に寄与する商業・業務施設の導入、都市型住宅の供給など複合的な跡地利用



まちづくりの具体化に向けて

駅周辺地区

南地区

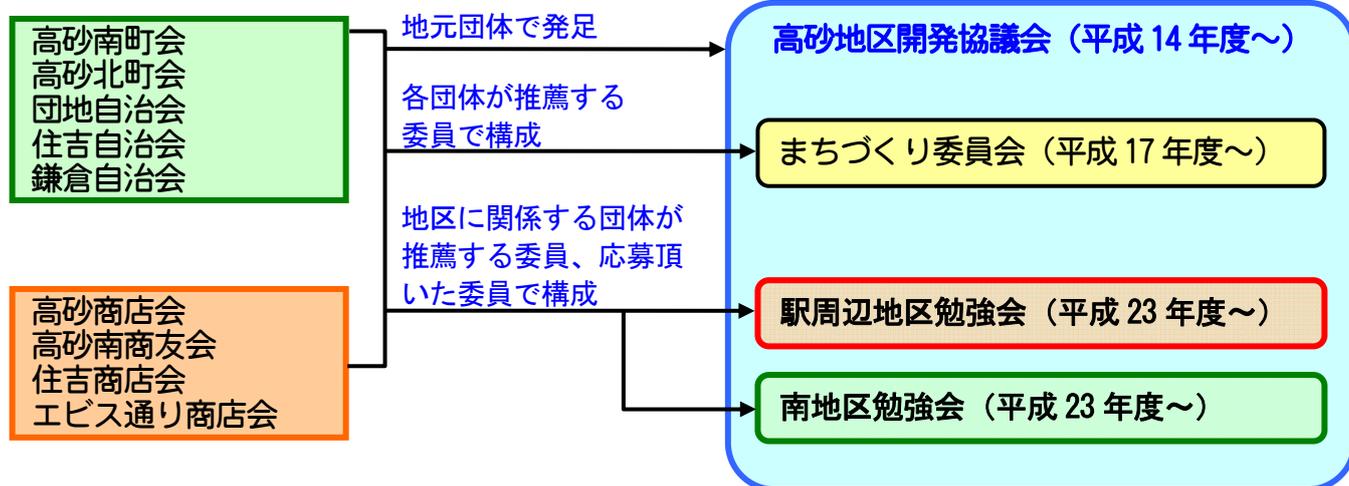
まちづくり勉強会がスタート!



「まちづくり基本構想・まちづくり方針」策定後は、さらに具体の検討へとステップアップしていく必要があります。このことから、開発協議会では、まちづくり方針に示すゾーンごとに勉強会を設置し、地区の特徴をふまえながら、より一層、まちづくりの検討を深めていくこととしました。

まちづくり勉強会は、ゾーンごとのまちづくりの動向や住民のまちづくりの気運を踏まえて、順次、設置していきます。

●開発協議会とまちづくり勉強会の構成



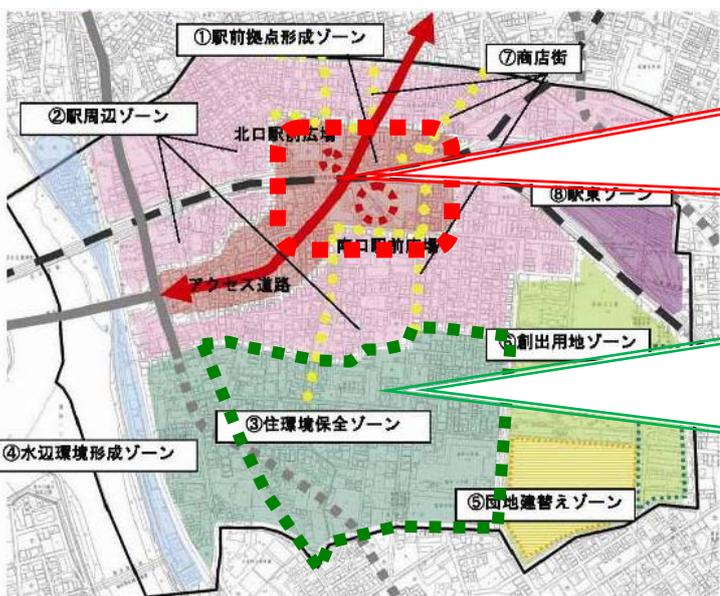
●駅周辺地区と南地区で勉強会を発足した理由

駅周辺地区 (駅前拠点形成ゾーン)

- ・ 鉄道立体化に伴い、駅前広場やアクセス道路の整備などの基盤整備が不可欠となります。
- ・ 駅前にふさわしい商業環境の整備や景観整備など、駅周辺のまちの課題を解決し、発展性のあるまちにする必要があります。

南地区 (住環境保全ゾーン)

- ・ 平成 22 年度に実施したまちづくりアンケート結果では、「せまい道路の拡幅や行き止まりの解消」「緑豊かで環境に配慮したまち」が望まれています。
- ・ 公園が不足しているところがあり、公園整備を核とした住環境の向上を図る必要があります。



まちづくり勉強会の23年度の活動

平成 23 年度は、両地区とも事例視察3回、まち歩き1回、会議3回を実施し、地区別のまちづくりの方向性を確認しました。

勉強会の検討経過は、別途「勉強会ニュース」を発行して、地区の皆さんにお知らせしています。これまで、どちらの地区も3回、ニュースを発行しました。

勉強会ニュースは
高砂南町会、高砂北町会
の掲示板でもお知らせ
しています



勉強会の進め方

- ・ 勉強会委員は、**住民の立場からまちづくりに関する意見やアイデアを検討し、望ましいまちの姿を検討します！**
- ・ **全員が楽しみながら意見交換**できるよう、ワークショップ形式での話し合いを基本とします！
- ・ 勉強会での検討をお知らせし、勉強会に参加できない方のご意見を募集するため、「**勉強会ニュース**」を発行し、**それぞれの地区の全世帯に配布**しています！

事例視察による学習（開発協議会・駅周辺勉強会・南地区勉強会合同開催）

駅周辺の賑わいまちづくりと住宅地の防災まちづくりの事例を学習しました。

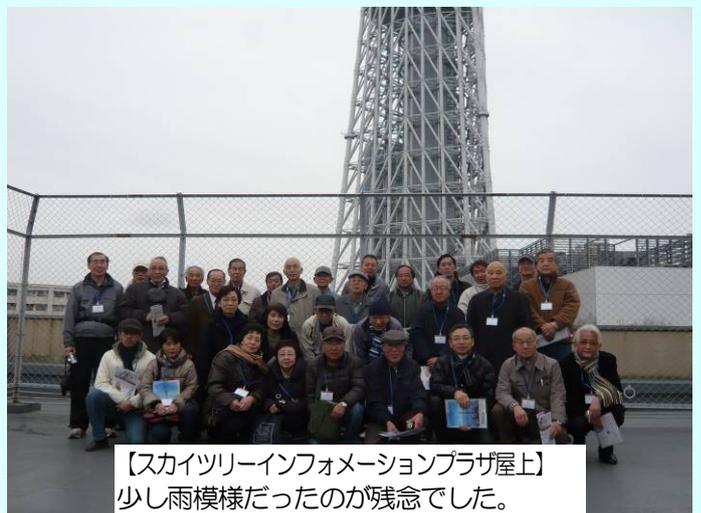
- 1回目：石神井公園駅周辺（練馬区）
東池袋4・5丁目（豊島区）
- 2回目：武蔵小山駅周辺・
林試の森公園周辺（品川区）
東京臨海広域防災拠点・
そなエリア東京（江東区）
- 3回目：東京スカイツリー周辺・
曳舟駅周辺（墨田区）



【西武池袋線石神井公園駅】
鉄道立体交差事業の完了まであと一歩



林試の森公園は広域避難場所。
災害時は8万人以上の方が避難します。



【スカイツリーインフォメーションプラザ屋上】
少し雨模様だったのが残念でした。

<駅周辺地区まちづくり勉強会>

駅周辺地区勉強会は、駅周辺にかかる町会、商店会からの推薦委員と公募委員の27人で構成されています。

今年度は、青砥駅周辺のまち歩きを行って、高砂駅周辺の賑わい空間のイメージ検討を行うとともに、「まちづくり双六」を使って、まちづくりのステップを学びました。これらの検討を経て、駅周辺のまちづくりの方向性をとりまとめました。

【駅周辺地区のまちづくりの方向性】

- まちづくり基本構想・基本方針を展開
 - ・まちづくり基本構想（平成20年）の具現化
 - ・まちづくり方針（平成22年）による取組み
- 鉄道立体化を契機としたまちづくり
 - ・駅前広場やアクセス道路の整備
 - ・駅前の顔づくり・賑わい創出
- 駅前の賑わいを周辺に波及させるまちづくり
 - ・駅前だけでなく周辺の商店街への好影響を
 - ・地元の人が住み続けられる事業手法を
 - ・高砂の潜在力を発揮できるまちづくりを



<南地区まちづくり勉強会>

南地区勉強会は、高砂南町会の3部と8部の区域を対象に、住宅地のまちづくりを検討しています。町会からの推薦委員と公募委員の20人で構成されています。

今年度は、まちのよいところ・改善したいところを話し合い、実際にまちを歩いて、まちの現状を確認しました。まちの課題と解決方法について検討し、南地区のまちづくりの方向性をとりまとめました。

【南地区のまちづくりの方向性】

- 誰もが安心して通ることのできるまちづくり
 - ・安心して「歩く」ことのできるみちづくり
 - ・人も自転車も自動車も安全に通行できる道路整備
- 防災性の高いまちづくり
 - ・災害の危険性のない安全な環境づくり
 - ・初期消火ができる、普段から火災に強いまち
 - ・防災に役立つ公園づくり
- 「風情」を感じられるまちづくり
 - ・水と緑が調和した、静かな住環境のまち
 - ・昔の面影やまちのよいところを伝えるまちづくり
- 仲良く暮らせるまちづくり
 - ・子どもからお年寄りまで仲よしコミュニティづくり



まちづくりの普及啓発活動に取り組みました！～高砂音楽祭～

去る3月11日(日)、高砂音楽祭に参加し、まちづくりのPR活動とまちづくりアンケートを行ないました。午前中には、用意していた500枚のアンケート用紙を配布し終わり、音楽祭に参加した高校生や来場していた中学生にも答えていただきました。

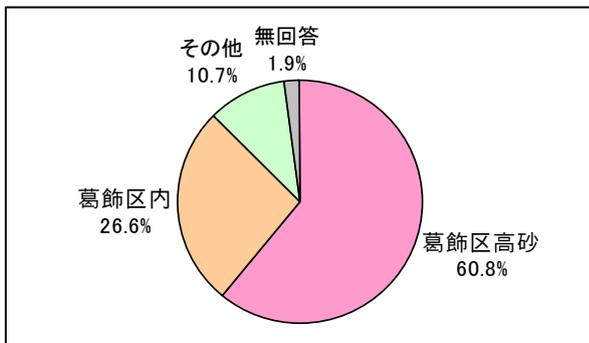


青木区長も視察に来られました

まちづくりアンケートへのご協力、
ありがとうございました。
468人の方から、ご回答いただきました。
集計結果をご報告します！

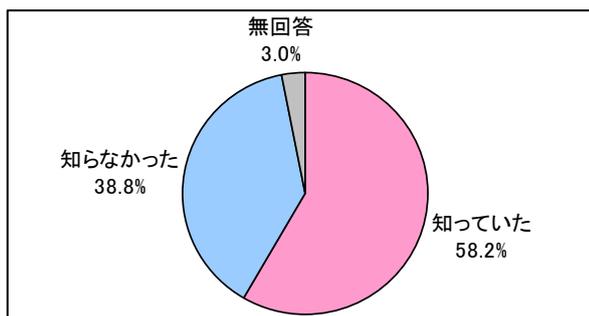
問1 お住まいはどちらですか？

- ・高砂以外にお住まいの方も、高砂音楽祭に参加しています。



問2 高砂地区開発協議会の活動をご存知でしたか？

- ・「知っていた」方が約6割。昨年実施したアンケート結果より約1割も増加しました。

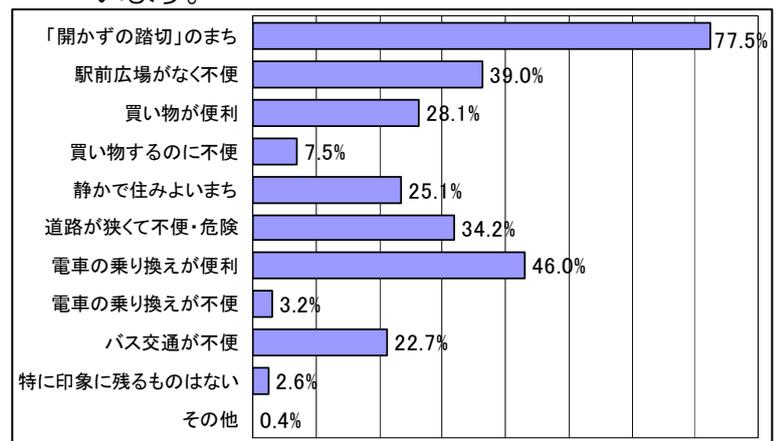


■189人の方から、自由回答をいただきました。主なまちづくりに関するご意見をご紹介します。

- ・鉄道立体化の早期実現を(47人)
- ・賑わいある商店街整備を(42人)
- ・道路整備の推進を(14人)
- ・住みよい安全なまちづくりを(13人)
- ・まちづくり方針案について(10人)
- ・開発協議会の活動について(53人)

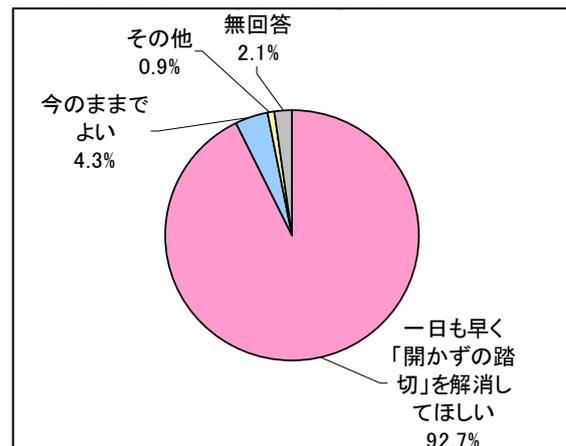
問3 高砂駅周辺についてどんな印象がありますか？(複数回答)

- ・「開かずの踏切」のまちという印象を、約8割の方が持っています。
- ・「電車の乗り換えが便利」である一方、「駅前広場がなく不便」「道路が狭くて不便・危険」という印象も多くなっています。
- ・一方「買物が便利」「静かで住みよいまち」という住宅地としての良い印象もある結果となっています。



問4 「開かずの踏切」について、どう思いますか？

- ・「一日も早く「開かずの踏切」を解消してほしい」と回答した方が9割以上という結果です。
- ・「開かずの踏切」解消は、まちのみんなの願いであることが、改めてわかります。



高砂地区開発協議会・これまでのあゆみ

【高砂地区開発協議会のあゆみ（主な出来事）】

●平成14年

- 4月 高砂地区開発協議会が9団体にて発足
- 6月 石原都知事に踏切解消の要望書を手渡す
- 8月 踏切解消に向けた第1回の総決起大会を開催
- 11月 東京都議会に署名簿と請願書を提出。葛飾区議会にも請願書を提出

●平成16年

- 3月 高砂地区開発協議会ニュース第1号を発行
- 6月 東京都が策定した「踏切対策基本方針」の中で「鉄道立体化の検討対象区間」20区間の1つに高砂を位置づけ
- 10月 第2回目の総決起大会を開催

●平成17年

- 7月 高砂地区開発協議会の下部組織「まちづくり勉強会」を発足
- 9月 江戸川区北小岩地域と一体となった京成本線立体化促進住民協議会を設立
- 10月 「京成本線立体化を促進する住民決起大会」を開催

●平成18年

- 7月 高砂地区開発協議会の下部組織「まちづくり委員会」を発足
- 8月 「鉄道立体化の要望書」と約13万名の署名を国土交通省、東京都に提出
- 10月 「エレベーター設置の要望書」を葛飾区、京成電鉄へ提出

●平成19年

- 3月 「鉄道立体化を求める要望書」を東京都、京成電鉄に提出
- 10月 京成本線立体化促進住民協議会総会を開催
- 11月 「鉄道立体化を求める請願書」を葛飾区議会、東京都議会へ提出
- 12月 「連続立体交差事業の要望書」を東京都、国土交通省に提出し要請

●平成20年

- 4月 「連続立体交差事業の早期事業化」を訴える横断幕を駅近切付近に設置
- 6月 「鉄道立体化の検討対象区間」20区間のうち7区間を事業候補区間に位置づけ。この中に「京成本線京成高砂駅～江戸川駅間」が選ばれた
- 10月 鉄道立体化にあわせた「高砂駅周辺のまちづくり報告会」を開催

●平成21年

- 5月 まちづくり委員会で「高砂駅周辺まちづくり基本構想（案）」の最終検討を実施
- 6月 「高砂駅周辺まちづくり基本構想」を葛飾区へ提案
- 7月 高砂地区町会連合会と連名で、京成電鉄株式会社に、「鉄道立体化の早期事業化を求める要望書」を提出

●平成22年

- 11月 高砂音楽祭に参加、まちづくりPR活動実施

●平成23年

- 5月 「高砂駅周辺まちづくり方針」の取りまとめ
- 6月 高砂地区町会連合会と連名で、京成電鉄株式会社に、「鉄道立体化の早期事業化を求める要望書」を提出
- 8月 まちづくり勉強会の下部組織として「地区別勉強会」を設立。2地区で勉強会を立ち上げ
- 10月 駅周辺地区・南地区で勉強会発足

●平成24年

- 3月 高砂音楽祭に参加、まちづくりPR活動実施



平成20年10月 高砂駅周辺まちづくり報告会



平成21年6月 まちづくり基本構想を葛飾区へ提案

京成本線の鉄道立体化の早期事業化を求める

要望書を提出しました！

高砂地区開発協議会 高砂地区町会連合会

平成23年6月8日、高砂地区開発協議会と高砂地区町会連合会は、連名で京成電鉄株式会社に、「京成本線の鉄道立体化の早期事業化を求める要望書」を提出しました。

協議会からは、金町線が高架されたものの、成田スカイアクセスが通過することになり、現在でも高砂駅周辺の踏切は1時間に52分も閉まっているので、1日も早い鉄道立体化の早期事業化と、踏切を通行する歩行者の安全確保の観点から引き続き踏切の誘導員の配置を要請しました。

京成電鉄からは、『鉄道立体化については東京都が主体となって調査中であり、東京都の「鉄道立体化の検討対象区間」20区間に選定されているので事業をすべき価値のある場所との認識を持っている。一日も早く鉄道立体化の事業化が出来るように取り組んでいく』との回答をいただきました。



要望書を提出する本田会長



要望により設置されたエレベーター

平成21年に高砂地区開発協議会と高砂地区町会連合会が京成電鉄に要望した高砂駅南側階段（イトーヨーカドー側）へのエレベーター設置が実現しました。これでイトーヨーカドー側から都道（バス通り）を横断せずに改札へアクセスできるようになりました。

今後とも高砂地区開発協議会では鉄道立体化実現や高砂駅周辺のまちづくりについて地域の方の利便性や環境を改善する活動に努めてまいります。

★高砂地区開発協議会とは？

高砂地区開発協議会は、地元5町会・4商店会で平成14年に発足した団体で、高砂駅付近の“開かずの踏切”解消に向けてさまざまな取り組みをしています。

1. 京成高砂駅～江戸川駅間の鉄道立体化実現のための活動

国、東京都、葛飾区、京成電鉄(株)へのはたらきかけ（請願書、要望書、署名等の提出）

2. 高砂駅周辺(高砂2丁目～5丁目)のまちづくりに関する活動

- まちの現況把握（まち歩き、まちの問題点・課題点の整理、アンケート調査など）
- まちづくりの事例視察・高砂のまちづくりの検討・まちづくり基本構想の策定

3. 鉄道立体化及び高砂まちづくりに関するPR

「高砂地区開発協議会ニュース」の発行、まちづくり報告会の開催など

お問い合わせは、高砂地区開発協議会事務局まで

葛飾区役所 高砂地域整備担当（担当：田中・中村・飯田）

電話：5654-8344（直通） FAX：3697-1660